

都市整備部会 会議録

（出席者） 委員：10名
事務局長：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）
アドバイザー：1名
ファシリテーター：1名

（会議の内容）

1. はじめに

資料1に基づき、第5回まちづくり市民会議（第4回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料2に基づき、第6回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

2. 視察報告

平成24年3月に実施した磐田市への視察について、部会員より報告を行いました。

内藤戦略部会員

昨年度3月に磐田市を視察した。磐田市の人口は田原市の約3倍の17万人である。地域の自主的な清掃活動を親しみやすい名称として「まち美化パートナー活動」と名付け、実施している。この活動は171団体23,761人から成り立ち、東海地方では規模的にかなり大きな取組みである。導入の経緯は田原市と同様、市役所主体の道路清掃活動を進めるなかで、ゴミ投げ捨てるの蔓延、舗装不良箇所の増加などの状況があったためである。地域の自主的な清掃活動が行われていたため、市の援助ができないかとアダプトプログラムの導入が検討された。

「市民が参加しやすい環境づくり」を目的として平成17年7月に試行開始した。導入に向けての活動として磐田市オリジナルのアダプトメニューの検討や自治会及び市民団体に対する説明会等を行った。制度として「磐田市アダプト・ロード」を開始したのは平成18年4月である。1年間活動していたが、この名称では道路だけが対象となり、公園や河川、学校等の公共施設が当てはまらないため、平成19年4月、市民に親しみやすい名称で、より大きな規模で行えるよう、「磐田市まち美化パートナー制度」が開始された。

「磐田市まち美化パートナー制度」の取組みとしては「舗装新設」「舗装修繕」「道路附属施設修繕」「海岸清掃」「環境学習会」「企業による活動」「サッカークラブによる活動」「道の日 道路愛護活動」がある。

まち美化パートナー制度には問題点がある。「活動のマンネリ化、停滞」「参加者の減少」「費用・人的負担が大きい」「高齢化」「制度の内容が市民に伝わっていない」などの問題点がある

活性化や、問題点の解決のための取組みとして「まち美化パートナー連絡協議会の設立と運営」「活動団体の問題点・課題の把握」「各団体の連携強化」「環境美化・環境保護の共有化」「各団体からの提案（ボトム・アップ）」「市民への活動PR」などが考えられる。

まち美化パートナー連絡協議会、行政の磐田市、実際に活動を行うまち美化パートナー団体が

協働してさらなる発展をめざしているということだった。

企業での取組みについて、委員より報告をいただきました。

伊藤委員

私の会社は本社が磐田市にあり、まち美化パートナー制度を利用して清掃活動をしている。以前は会社の周りを毎朝、また月に一度は清掃範囲を広げて活動をしていた。その後、まち美化パートナー制度があると聞き、会社以外の場所も清掃するようになった。今は年間で3回ほど、この制度を利用して地域活動に貢献している。また1年に1度、我が社ではエコウォーキング大会というのをやっており、会社から2~3Kmのところを、ゴミを拾いながら歩いている。年に3回、地域の清掃活動を行うが、その際、市にそのことを言うと市役所の職員、2~3名がスコップなどの道具を持参して参加してくれ、持ってきた道具をわれわれに貸し出してくれる。朝に30分から1時間ほど行き、側溝などの泥を掘り返し、ゴミを1か所に集める。それを午後、市の清掃車が来てもっていかけてくれる。したがってゴミは集めているが、そのあとの処理は全部市のほうでやってもらっている状態である。

側溝などを掃除して多くのゴミが出るとわれわれも困る。捨てるにしても産業廃棄物という扱いになるため、処分に困っていた。それを市で支援してくれ、また活動を行うときは市の職員が来てくれる。また一緒に行う清掃活動の際には、情報交換もできている。

地域・市民での取組みについて、委員より報告をいただきました

小久保委員

国道沿いは雑草などが生えて汚い。通常は草が大きくなったところで刈り取るので、効率がよくないと言われてきた。そこで、道路脇の土の部分から草が生えてくるため、土ごと取り除けば雑草は生えてこないのではないかと考え、月1回、30日を清掃日に決め、福江・清田校区の住民で組織する「クリーンアップ隊」で道路清掃作業を始めた。伊藤委員と同じように土をあつめた際、どうするかということで困っていた。役所に相談すると、渥美支所の協力で、市が所有する土地へそれを処分することが出来るようになった。わたしたちの活動は市との協働で行えるようになったと考えている。

3. グループワーク

「市民協働モデル事業」について、2グループに分かれてKJ法によるグループワークを行いました。

■メンバー

	グループ1	グループ2
委員	伊藤委員、山田委員、鈴木（一）委員 小久保委員、鈴木（孝）委員、	夏目委員、杉本委員、根之木委員、 鈴木（章）委員、富田委員、 駒木アドバイザー
事務局	河合、宮本、内藤、江口（JP総研）	三竹、彦坂、小谷、牧野

4. アドバイザー総括（駒木アドバイザー）

ごみ拾いを中心とした活動は結構行われている。学生たちが東海道五十三次などの宿場町でゴミ拾いなどの活動をしている。今年からは愛知大学の学生も宿場町周辺を歩いてゴミ拾いをしている。バスケットチームの浜松・東三河フェニックスの選手と、またその試合の応援に来た人たちもゴミ拾いをしていた。

ゴミ拾いは、究極的には、その活動を通じて地域への愛着を深めるといふ点にあると思う。地域を知る、地域に関わる、地域を考えるというきっかけになってくれればと思う。

ゴミ拾いは自分の足で歩いていくため、今まで見えなかった景色がみえてくるようになる。街を知るきっかけになり、自分の街を知り、他人の街を知り、その違いを感じることも出来るようになる。そこを情報交換したり、情報発信したりして、一つの市であったり、街が出来ると考えている。そういった活動をすべてボランティアでやっていくのは難しい。出来ない部分は行政に支援してもらおう。資材などの用意、また処理などは個人ではなかなか難しい。そのようなところを行政に支援してもらえればと考えている。また、いろいろなアイデアが出てくるが、それを現実化させるために仕組みづくりに参加してもらい、それに応える形でわれわれ市民や団体が力を合わせていければと考えている。

5. 市民協働モデル事業 名称の検討

各部会委員・戦略部会員から提案された市民協働モデル事業の名称について、全員による投票を行った結果、「クリーン グリーン 道づくり」プロジェクトに決定しました。

6. その他

次回開催日程は、8月27日（水）19：00からに決定しました。各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

グループ1

市民・地域・団体

行政の支援

1 きっかけづくり

遊びながらやる

【地域】イベントなどを一緒に行う(子供も参加できる)

年2回の美しくする推進デーで、公園の除草、道路のゴミ拾いの他に道路の除草も行う

商・企業の社会貢献地域貢献活動と一体的に行う

各地区の活動の事例をPRする、広報する

美しくする推進デーの広報・PRをもっと行う

小学校等でゴミ拾い通学などを実施(月1回程度)

小中学生の清掃活動を地域が一体となって行う

月1回の清掃場所を決めて活動実施

日本一きれいな街というテーマを決めてそれを目標にする

市役所の月1回の清掃デーを外に出て、団体・企業と協働で清掃

2 しくみづくり

歯抜けの街路樹低木の再生支柱の撤去

交差点や横断歩道の「立ち番」から、道路沿いの「ゴミ拾い、草刈り」に変更する。「ポーズより実務」にシフトする

樹木の剪定の講習。盆栽カレッジ

3 継続のために

道路維持事業に参加する
メリット(ポイント制など)をつける

ごみを捨てる場所・集める場所を整備しておく

スコップなど道具を使えるようにする

拾ったゴミ・とった草の量に応じておまけ(花苗)を渡す

4 活動のさらなる発展

手入れが簡単になるための植栽を工夫する(菜の花など)

レモングラス、クローバー、ハーブ等

雑草が生えにくい草の情報を提供する

グループ2

市民・地域・団体

行政の支援

1 きっかけづくり

家の前、店の前の雑草をとる 啓発

【地域】ゴミ拾い、草刈りを通じたまち（住んでいる地域）の再発見

通学の途中でゴミ拾い。親も一緒に通学路を歩きながら

“道の駅”等で田原の来訪者にアンケートを依頼し情報を収集する。実態の把握

行政もボランティアを行う

2 しくみづくり

月1回の清掃 DAY 平日の朝。市内一斉に10分のゴミ・草などを清掃（市・地域・学校・企業）

ある特区を設けて実施してみる「キレイな」モデル地区

良い企画は無理しても実行する

資材の貸し出し、花苗、種（菜の花）、ゴミ袋等の提供

3 継続のために

ガードレールの色ぬり 楽しんで参加してもらうための仕組みとして

子どもたちの絵やデザインを取り入れる（建造物の塗り替えなど）

各種団体に協力依頼する 動機づけが必要

道路維持 沿道緑化事業のPR、キャンペーンのこれまで以上の実施

4 活動のさらなる発展

個人の土地にも菜の花を植えてきれいな道づくり（ゴミを捨てられない道へ）

後の管理がしやすい沿道整備 つつじなどを植えると草刈りも出来ない

夢を語る風景にするために…

沿道に田原ならではのモニュメントを置く。イメージアップ

清掃活動（マップ）の公開（情報交換）

草刈り、ゴミひろいだけにこだわらない（とどまらない）取組みの可能性

緑化運動 地域で審査表彰

同じ田原市でもまちなかと郊外でのやり方、共通点と違う点を探る必要性